慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.2 (1962. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19620201--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1962年　2月号

論　説

第一インターナショナルとイギリス労働組合運動……飯田　鼎　1
——十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義(その三)——

経済発展段階と所得分配……丸尾直美　23
——均衡成長と均衡分配の条件——

設備投資函数に関する基礎的考察……高橋房二　52

資　料

ジョン・フランシス・ブレイ(二)……遊部久蔵　75

絶対王政の土地問題……渡辺國廣　92
——ノルマンディにおける農業改革の展開——

書　評

S. B. リンダー著
『貿易と経済構造変化に関する一試論』……深海博明　102

新刊紹介

55巻 2号

昭和25年10月24日 第三種郵便物認可
昭和26年2月13日 国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和37年1月1日 発行（毎月1日発行）

三田学会雜誌
昭和三十七年一月号
定価 金九〇円（送料二円）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 55, No. 1　　January, 1962

CONTENTS

page

Forced Saving through Export……*K. Yanaihara*　1
——A Case Study of Ghana's Cocoa Export——

The Trade between Soviet Russia and Eastern Europe……*H. Kato*　28

John Francis Bray (1)……*K. Asobe*　48

Note

Some Problems on the Incidence of Corporate Income Tax……*S. Furuta*　62

Book Reviews

The Powerful Consumer, by George Katona……*M. Chabachi*　78
Louis Blanc, by Leo A. Louvère……*H. Noji*　86

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

第一インターナショナルとイギリス労働組合運動

——十九世紀イギリス労働運動とマルクス主義（その三）——

飯田鼎

一、はしがき
二、国際的労働運動の発端
三、同胞民主協会の成立とその没落

一

歴史を研究する者にとってもっとも警戒すべきことは、その問題への接近の手法において、ともすれば事件の叙述ないし描写におちいり、博引旁証に終始する結果、歴史的な事象の単なる羅列に終ってしまうことではなかろうか。歴史家がたえず心がけなければならない重要な課題のひとつは、いうまでもなく歴史の発展を客観的に把握し、描写もしくは表現することであろうが、同時にそれから得られた素材を基礎として理論的に再構成し体系化することでなければならず、とりわけ現代的な視点からみて、それらの事実の探求がどのような意義をもっているかという熾烈な問題意識にたえず支えられることが必要であると思う。[1] とくに労働運動史や社会運動史の研究は、このような深刻な態度をわれわれにせまってやまない。

新刊紹介

梅村又次著『賃金・雇用・農業』……西川俊作 110
上野裕也著『日本経済の計量経済学的分析』……西川俊作 110
講座・国際経済・第3巻『国際貿易』……深海博明 111
国民生活研究会編『10年後の国民生活』……佐藤保 112